

注目のテーマ型ファンドは こうアドバイスする

上村武雄 ノット・アドバイザーズ代表

話題となっている特定のテーマを投資対象にするテーマ型ファンドについて、基本と提案のポイントを解説する。

1 テーマ型ファンドとは何か

テーマ型ファンドとは、アクティブファンドの

一種で、市場で話題となつているテーマに注目し、そのテーマに関連した銘柄に投資するファンドだ。

例えば、環境、技術革新、資源等のおおりの場合もあれば、最近ではDX、ロボット、フィンテック、AI、S

DGs等、絞り込んだテーマもある。

過去には、IT関連ファンド、エコファンド、BRICSファンド、シエールガスファンド等、その時期において話題になっていたテーマが、テーマ型ファンドとして誕生している。

自身の関心事を投資テーマにできる

テーマ型ファンドの存在意義は大きく3つある。

1つ目は、投資対象の分かりやすさだ。投資信託は株式投資に比べて少額で分散投資ができる一方、何に投資しているかが分かりにくいというデメリットがある。

例えば「有名なファンドマネージャーの●●氏が運用する運用成績好調な●●戦略ファンド」というだけでは、そ

の運用の中身は不明だ。

その点、テーマ型ファンドは何に投資するかが明確になっている。ロボットやフィンテックというテーマを掲げていれば、この明確なテーマに関連した企業に投資しているかを理解しやすいというメリットがある。

2つ目は、自分の関心を投資に反映しやすい点だ。例えば、お客様が個人的にVRやIoTなどへの関心が高い場合、テーマ型ファンドであれば関連する企業に投資するの

●テーマ型ファンドの特徴

■存在意義

- ①投資対象の分かりやすさ
- ②自分の関心を投資に反映しやすい
- ③市場平均より高いリターンを狙える可能性

■投資の注意点

- ①テーマへの関心が薄れ、テーマがテーマでなくなるリスクがある
(結果、投資期間が短くなる傾向なものリスクの1つ)
- ②関連企業の業績が期待したほど伸びないリスクがある
- ③組入銘柄が真にテーマに沿っているか、銘柄選択の根拠の確認が必要

(出所) 筆者作成

は簡単だ。実際、個別に専門性の高い分野で国内外の優良銘柄を探し、投資するのは簡単なことではない。3つ目は、市場平均より高いリターンを狙える可能性があるということだ。テーマに対する関心が世の中の高い場合、テーマ関連銘柄への「集中投資」により、市場平均より高いリターンを得られる可能性がある。ただし、言い換えると分散

が効いていないので、インデックスファンドなどと比べればハイリスクハイリターンであるともいえる。

組入銘柄が適切かその根拠を確認しよう

一方で、テーマ型ファンドへの投資の注意点は3つだ。

第一は、テーマへの関心が薄れ、テーマがテーマでなくなるリスクだ。世間で注目されているテーマには旬がある。人の関心は時間とともに変化するため、テーマへの関心が薄れると、そのテーマに的を絞ったファンドへの資金流入が減少し、純資産総額が小さくなることも多い。

あるいは、世間の注目は続いていても、投資家の投資対象としての関心が薄れ、ファンドから資金が流出することもある。テーマ型ファンドに投資するお客様のうち一定数は、イメージしている投資期

間が半年から1年と短いこともありリスクの1つだ。

第二は、関連企業の業績が期待したほど伸びないリスクだ。テーマ型ファンドであるうとなかろうと、投資対象の株価が上昇しなければ投資信託の基準価額は上昇しない。

テーマの人氣が継続しているも、期待していたほど企業業績が伸びなければ、結果として株価は上昇せず、ファンドの運用成績も低迷を続ける可能性が高くなる。

第三は、組入銘柄が真にテーマに沿っているかだ。なぜその銘柄を組み入れるのかという根拠を確認しておく必要がある。

例えば、DX、ロボット、フィンテック、AI、サイバーセキュリティといった、テック系のテーマ型ファンドの中身が、どれもマイクロソフトとグーグルへの投資比率が大きかったとしたら、もはや

POINT

- 投資対象が分かりやすく、関心の高いテーマに投資ができる
- テーマには旬があるため、長期保有には向かない
- テーマに合った銘柄選択をしているファンドを提案しよう